

名古屋学芸大学 大学院

メディア造形研究科

(メディア造形専攻 修士課程)

研究科案内

(2026 年度)

名古屋学芸大学

教育研究上の理念と目的

デジタルイノベーションが進む現在、メディア造形における諸領域は、各分野の拡大と融合、社会や産業に置ける役割の増大など、大きな変革期にあります。

取り分け、IT技術の発展はこれまでの創造プロセス、手法を一変させ、各分野ともこれまでになく新しい世界へ広がりを見せ、それに伴って既存の枠組みを超えた融合に対応する知識、能力、技術が求められるようになってきました。

このようなメディア環境の進展にあつて、本研究科が扱う領域の現代社会での役割は重要性を増しており、クリエイターであっても作品を制作するばかりでなく、プロジェクトの企画、運営から、時には総合的なヴィジョンの策定まで、大きな責務を担うこととなってきました。これからのクリエイターは、専門の知識や能力に加えて、広く高い視座からプランニングできる卓見や、複数の専門家と協働しプロジェクトを推進するディレクション力が不可欠となります。

このため、本研究科のカリキュラムは、専門を軸としながらも、周辺領域についても広範に学ぶことができるようにし、変革の途上にある社会の動向を鋭敏に感じながら、研究・制作を進められるよう、柔軟性をもたせています。

本研究科生は、各々の専門を深めながら、メディア造形の諸領域について横断的に学び、論文や作品へと収斂させることになります。

人材養成の目的と各ポリシー

(人材養成の目的)

本研究科は、メディア造形における諸領域の深い知識と制作経験に根ざす自立したクリエイター、研究者として、高度な専門性をもった人材の育成を目標とする。併せて、他領域の専門家と協働で新たなプロジェクトを立案、推進することのできるディレクション力をもった人材や、次代に対応する専門職の育成も目指す。

(ディプロマポリシー)

本研究科においては次の様な到達目標を掲げ、その能力を身に付け、論文または作品（研究報告書含む）の審査及び、最終試験に合格した者に修士（メディア造形）の学位を授与する。

- ・ メディア造形に関わる高い専門性を持ち、クリエイター、研究者として活動する能力を有している。
- ・ 専門領域の知識と経験を踏まえ、様々な領域の専門家と協働し牽引することができる。

(カリキュラムポリシー)

映像メディア、デザイン、ファッション造形など、メディア造形における諸領域の高度な見識を持ったクリエイター、研究者を育成するために、次のカリキュラムを編成している。

- ・ 本研究科の教育課程は、「専門科目」と「共通科目」で構成される。専門科目に設置された「メディア造形演習」、「特別研究」は、基幹科目として位置づけられ、指導教員とともに個々の研究課題のもと専門性を涵養し、修士論文、修士作品へと結実させる。
- ・ 専門科目「映像メディア特論」、「デザイン特論」、「ファッション造形特論」では、学士課程での学びを踏まえ、映像メディア、デザイン、ファッション造形のいずれかの領域の専門知識を深化させる。そのうえで、他領域の専門科目の履修も認めることで、幅広い分野の学びを推奨する。
- ・ 共通科目には、修士課程における基礎教養に位置づけられる科目や、メディア造形全般に関係する学際領域の科目を設置している。視覚文化全般に関係する美学的基礎理論や、技術革新によるメディア造形諸領域の動向などを実践とともに学ぶ。

(アドミッションポリシー)

本研究科が対象とする諸領域は常に変化しており、専門の深化だけではなく境界を越えての複合や融合が加速している。そのため本研究科は専門の深化を柱としつつ、領域横断を推奨する柔軟なカリキュラムを構成して、次代に対応する専門家の養成を目指す。そのことを前提として、次のような学生を求める。

- ・研究主題を明確に持ち、作品制作や研究の実践を通して、自身の専門を深める意欲を持っている人。
- ・専門領域や隣接する領域はもとより、進展するメディア技術や社会的動向にも関心を持ち、未知の事象への探究心を持っている人。

教育課程の編成の考え方と特色

メディア造形研究科・メディア造形専攻の教育課程は、共通科目と専門科目に大別されます。

共通科目では、メディア造形諸領域に共通して求められる基盤的・横断的な知識や思考法を養成します。「メディア造形文化特論」では、メディア造形共通の美学的基礎理論及び、論理的思考の基礎を養います。「論述構成演習」では、文章表現の実践とともに、論文やレポートを記述するうえで基礎となる論理的な章構成、文献・図版引用のルール、先行研究の調査方法などを習得します。「感性工学特論」では、人間を中心に捉えたデザインを実現するため、「人の心を知る。」ための感性工学を活用したデザインの手法を学びます。「イノヴェイティヴメディア特論」では、最先端のデジタルイノヴェイションが、アート、デザイン、コミュニケーション、産業、生活等に及ぼす革新的な変化について、実践を通して学びます。更に「クリエイティヴマネジメント特論」では、クリエイティビティを経営資産と位置付けるデザインマネジメントや、新しい価値を生み出す方法論としてのデザイン思考の事例を通して、実社会における創造性のありようとその具現化プロセスを学びます。

専門科目に設置された「メディア造形演習」、「特別研究」では、映画、映像表現、サウンド、メディアアート、インスタレーション、パフォーマンス、ヴィジュアルコミュニケーションデザイン、インダストリアルデザイン、スペースデザイン、トランスポーターデザイン、アパレルクリエイション、ファッションデザインなどの各専門を指導教員とともに深化させます。そのうえで、「映像メディア特論」、「デザイン特論」、「ファッション造形特論」のいずれかを履修し、自身の専門の歴史的背景や、現在の動向、周辺領域との関係性などの座標軸を獲得できるようにします。

本研究科生は、共通科目と専門科目の並行した学びを通して、知識、能力を深化させ、専門性と学際的な見地を併せ持ったもったクリエイター、ディレクター、研究者を目指すことになります。

修了要件

専門科目の「映像メディア特論Ⅰ・Ⅱ」、「デザイン特論Ⅰ・Ⅱ」又は「ファッション造形特論Ⅰ・Ⅱ」のうち、いずれか2科目4単位を必ず修得し、必修科目18単位を含め合計30単位以上取得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文(作品)を提出してその審査及び最終試験に合格しなければならない。

授与学位

修士(メディア造形)

開講科目

()は単位数

【共通科目】

メディア造形文化特論(2)、論述構成演習(2)、感性工学特論(2)、
イノヴェイティヴメディア特論Ⅰ(2)、イノヴェイティヴメディア特論Ⅱ(2)、
クリエイティヴマネジメント特論Ⅰ(2)、クリエイティヴマネジメント特論Ⅱ(2)

【専門科目】

映像メディア特論Ⅰ(2)、映像メディア特論Ⅱ(2)、デザイン特論Ⅰ(2)、デザイン特論Ⅱ(2)、ファッション造形特論Ⅰ(2)、ファッション造形特論Ⅱ(2)

メディア造形演習(4)、特別研究(10)

【注】開講科目は2025年度のものであります。

教 員

- 杉浦康夫 学長・教授《医師・医学博士》
 - ・ 専門：神経解剖学・疼痛学・神経病理学
 - ・ 研究テーマ：痛みの機能形態学的研究、言語表出できない人の痛みの評価
 - ・ 略歴：名古屋大学大学院医学研究科 博士課程 満了
福島県立医科大学 教授
名古屋大学 教授
名古屋大学医学部長・医学系研究科長
名古屋大学副総長
愛知県心身障害者コロニー総長
瑞宝中綬章受章
- 渡部 眞 研究科長・教授《MFA》
 - ・ 専門：映画撮影・照明・演出
 - ・ 研究テーマ：映画撮影技法、フィルムアーカイブおよびデジタル保存、映像関連技術者の就労環境
 - ・ 略歴：早稲田大学第一文学部演劇学科卒業（文学士）
The American Film Institute 修了（芸術修士：Master of Fine Arts）
日本映画撮影監督協会（JSC）理事
全国映画教育協議会会長
 - ・ 作品：監督：「Life in Motion」「HUG BOX」
撮影：「いつか、いつも.....いつまでも」「嫌な女」「唇はどこ」「SOUL RED 松田優作」
「西の魔女が死んだ」「接吻」「ありがとう」「恋に唄えば♪」「五条霊戦記」
「千年旅人」「らせん」「香港大夜總會」「アートフル・ドジャーズ」「鉄塔武蔵野線」
「エマージェンシーコール」「大失恋」「ナチュラルウーマン」「Out of the Rain」
「誘惑者」「の・ようなもの」「夏子と長いお別れ」「杳子」、他コマーシャル、ドキュメンタリー作品
- 内田和邦 教授《芸術学士》
 - ・ 専門：ファッションデザイン、ショー企画・構成・演出
 - ・ 研究テーマ：メディア表現としてのファッションプレゼンテーション
身体・ユニバーサル・ファッションの境位
 - ・ 略歴：名古屋芸術大学美術学部絵画科洋画専攻科卒業
ファッション企画事務所 AUMART WORKS 代表
金城学院大学、岐阜市立女子短期大学非常勤講師
 - ・ 所属：ユニバーサルファッション協会
日本繊維製品消費科学会

- 小笠原則彰 教授《教育学修士》

- ・ 専門：現代美術、インスタレーション
- ・ 研究テーマ：表象と藝術との関係、メディアとしての藝術について
- ・ 略歴：愛知教育大学大学院修了
第13回中日展 大賞受賞
第12回現代日本美術展 大賞受賞・新潟市美術館賞受賞
愛知県芸術文化選奨文化賞受賞
岐阜県立情報科学芸術大学院大学メディア表現研究科研究生
愛知教育大学非常勤講師
豊橋技術科学大学非常勤講師
現在 様々な領域の作家とアート・プロジェクトを实践中

- 黄ロビン 教授《芸術学修士》

- ・ 専門：インダストリアルデザイン、ライフスタイルスタディ、ユーザインタフェースデザイン、感性工学、デザイン方法論、デザイン経営
- ・ 研究テーマ：電化製品とライフスタイル、触覚インタフェース、メタデザイン言語、自助具デザイン、デザインシンキング、デザイン教育
- ・ 略歴：台湾国立成功大学工学部工業設計学科卒業
筑波大学大学院修士課程芸術研究科生産デザイン専攻修了
筑波大学大学院博士課程芸術学研究科満期退学
台湾聲寶股份有限公司家電事業部小家電部工業設計課課長代理
泓星設計股份有限公司總經理
台湾大葉大學工業設計學系専任講師
中華民國工業技術研究院電腦通信研究所デザイン兼任研究員
東北芸術工科大学デザイン工学部生産デザイン学科助教授
台湾工業設計協会 CIDA 理事
中部デザイン協会 CDA 理事
日本デザイン学会 JSSD 理事
日本インダストリアルデザイナー協会 JIDA 理事
- ・ 所属：日本デザイン学会 JSSD （現在：第3支部長）
日本インダストリアルデザイン協会 JIDA
- ・ 受賞：「中華民國全國大專院校設計競賽」最優秀賞、
川崎製鉄「ストリート・ファニチュア・デザインコンペ'90」最優秀賞、
ドイツ「iFデザイン賞」受賞、「中華民國優良設計獎 G-Mark」最優秀賞、
中部デザイン団体協議会 CCDO デザインアワード2018 特別賞、
日本インダストリアルデザイン協会 JIDA 特別表彰賞など。

- 小林克司 教授《修士（人間科学）》

- ・ 専門：グラフィックデザイン
- ・ 研究テーマ：紙面とスクリーンにおけるレイアウトの検証
地域とデザイン活動について
デザイン教育
- ・ 略歴：武蔵野美術大学造形学部視覚伝達デザイン学科卒業
日本大学大学院修士課程 総合社会情報研究科人間科学専攻修了
別府大学文学部芸術文化学科専任講師（1999～2006）
静岡産業大学（情報学部 2006～2020、経営学部 2020～2022）
名古屋学芸大学メディア造形学部教授（2022～現在）

- 佐近田展康 教授《文学修士》
 - ・ 専門：メディア美学、メディアアート、作曲、音声情報処理
 - ・ 研究テーマ：メディアアートの美学基礎理論研究、
人工音声ソフトウェア開発とヒューマンインターフェイス研究
人工音声による歌唱の研究と作品制作
映画における音の機能の研究
 - ・ 略歴：神戸大学文学部哲学科社会学専攻卒業
神戸大学大学院文学研究科修了（理論社会学）
西宮市役所一般事務職主事
愛知県立芸術大学、東京藝術大学、多摩美術大学、
IAMAS 非常勤講師、など
 - ・ 所属学会：美学会、日本記号学会、日本映像学会、ヒューマンインターフェイス学会、
先端芸術音楽創作学会
- 炭釜啓人 教授《芸術学士》
 - ・ 専門：ファッションデザイン、ファッション造形
 - ・ 研究テーマ：トレンド、シルエット、テキスタイルデザイン、クラスターの相互関係と作用
 - ・ 略歴：武蔵野美術大学造形学部建築学科 卒業
ACCADEMIA ITALIA MODA, ISTITUTO EUROPEO DI DESIGN,
ISTITUTO MARANGONI イタリア留学(1990～92)
宝塚大学造形芸術学部(旧宝塚造形芸術大学 1992～2016)
宝塚大学造形芸術学部 教授(2004～16)
宝塚造形芸術大学専門職大学院 教授(2009～2011)
宝塚大学大学院 教授(2014～16)
学校法人関西女子学園評議員(2015～16)
名古屋学芸大学 教授(2016.4～)、学科長(2016.10～)
NDK日本デザイン協会 理事(2002～2018)
 - ・ 所属学会：日本感性工学会
 - ・ 受賞歴：日本デザイン文化協会第 68 回 NDK ファッションショー 『大阪府知事賞』
大阪府商工関係者表彰『デザイン振興』
- 富安由紀子 教授《修士（芸術学）》
 - ・ 専門：芸術学・芸術史・芸術一般
 - ・ 研究テーマ：クリエイティブ思考とその実務展開（デザイン思考とデザイン・ドリブン・イノベーション）、
ビジョンデザイン、デザインマネジメント、デザインプロデュース実務、UX デザイン開発、
デザイン教育（デザインプロデュース、高度デザイン人材育成）
 - ・ 略歴：愛知県立芸術大学美術学部デザイン専攻卒業
愛知県立芸術大学大学院美術研究科デザイン専攻修了
株式会社 GK グラフィックス
tmgrf（トミグラフ）主宰
名古屋学芸大学メディア造形学部デザイン学科教授（現在）
名古屋学芸大学産官学協同研究センター長（現在）
 - ・ 所属：JAGDA（日本グラフィックデザイナー協会）
JIDA（日本インダストリアルデザイナー協会）
CCC（中部クリエイターズクラブ）

- 西尾浩一 教授《博士（デザイン学）》
 - ・ 専門：プロダクトデザイン、感性工学
 - ・ 研究テーマ：プロダクトデザインにおける生命感表現、タイ王国北部地域における工芸振興
ホスピタル・アートプログラムのデザイン
 - ・ 略歴：筑波大学第三学群基礎工学類卒業
筑波大学大学院修士課程芸術研究科デザイン専攻修了
筑波大学人間総合科学研究科後期博士課程芸術学専攻満期退学
筑波大学人間総合科学研究科研究員
茨城県デザインセンターデザインコーディネータ
福井工業大学環境情報学部デザイン学科教授
名古屋学芸大学メディア造形学部デザイン学科教授
日本デザイン学会理事
 - ・ 所属：日本デザイン学会、日本感性工学会
 - ・ 受賞歴：日本デザイン学会会長賞
- 伏木 啓 教授《MFA》
 - ・ 専門：映像表現、舞台演出、パフォーマンス、映像表現、映像理論
 - ・ 研究テーマ：複合的にメディアを扱ったパフォーマンス / 舞台作品の制作、研究
映像作品 / 映像インスタレーションの制作、研究
映像表現や舞台作品における非線形ナラティブに関する研究
 - ・ 略歴：Bauhaus University Weimar（独国バウハウス大学）, MFA 課程修了（MFA）
京都市立芸術大学大学院 美術研究科 博士後期課程 満期退学
DAAD（ドイツ学術交流会）スカラシップ（2006 年～2008 年）
名古屋大学 非常勤講師（2004 年～2006 年 / 2009 年～2016 年）
ファン・デ・ナゴヤ美術展 企画委員（2017 年～現在）
ストリーミング・ヘリテージ ディレクター（2021 年～現在）
愛知淑徳大学 非常勤講師（2008 年～現在）
 - ・ 作品：『The Other Side - Installation 2022』（コットンビル/ アートラボあいち, 2022 年）
『Breathe in / Breathe out』（個展 / YEBISU ART LABO, 名古屋, 2022 年）
『The Other Side - Feb. 2022』（ゲストアーティスト, 愛知県芸術劇場, 2022 年）
『The Other Side - Sep. 2021』（京都芸術センターKAC セレクション, 2021 年）
『The Other Side』（愛知県芸術劇場小ホール, 2019 年）
『waltz』（中川運河 水上, 2013 年～2015 年, 2018 年）
『Sites, Sights, Cites III』（Bauhaus-University Weimar, 2008 年）
『aqueduct』（Singuhr Hoergalerie / Wasserspeicher, Berlin, 2007 年）
『Sites, Sights, Cites』（Museum Center of Berlin-Dahlem, 2007 年）
 - ・ 所属：日本映像学会、日本演出者協会
- 山縣亮介 教授《修士（芸術学）》
 - ・ 専門：ファッションデザイン、芸術一般
 - ・ 研究テーマ：フォーマルウェアを規定する服装の色彩・デザイン要因
ファッションデザイン画におけるデジタル表現とアナログ表現
e-ランニングを用いたドレーピングの事後学習システムの構築
カラーコーディネートのための色彩調和 AI システムの構築
 - ・ 略歴：宝塚造形芸術大学 造形学部 産業デザイン学科卒業
宝塚造形芸術大学大学院 造形研究科修了
相山女学園大学非常勤講師
愛知学泉短期大学非常勤講師
(一社) 日本家政学会中部支部幹事
 - ・ 所属：(一社) 日本家政学会、(一社) 日本色彩学会、(一社) 日本繊維製品消費科学会

- 井垣理史 准教授《修士（芸術）》
 - ・ 専門：インスタレーション、コミュニケーションデザイン、舞台美術
 - ・ 研究テーマ：インスタレーション表現／イベントプロデュースと UX デザイン
舞台芸術における空間表現／デザイン基礎教育／遊びとデザイン
 - ・ 略歴：愛知県立芸術大学大学院 美術研究科油画専攻 修了（1998 年）
東京デザイナー学院名古屋校 非常勤講師（1998 年～2001 年）
NPO 法人たすけあい名古屋理事（2018 年～）
 - ・ 作品：『The Other Side - Sep. 2021』（京都芸術センター，2021 年）
『The Other Side』（愛知県芸術劇場小ホール，2019 年）
『waltz』（中川運河 水上，2013 年～2015 年，2018 年）
- 岩野一郎 准教授《芸術修士》
 - ・ 専門：アニメーション、3DCG
 - ・ 研究テーマ：ビジュアルデベロップメント、アニメーション制作
 - ・ 略歴：愛知県立芸術大学 美術学部 デザイン・工芸科 卒業（1997）
POWER DESIGN（1997～1999）
Iwano Design（1999～）
トライデントコンピュータ専門学校 講師（2002～2016）
京都造形芸術大学 非常勤講師（2009～2014）
名古屋学芸大学 非常勤講師（2015～2017）
愛知県立芸術大学 非常勤講師（2023～現在）
 - ・ 受賞歴：Cinanima2006（ポルトガル） / In Competition
第 19 回 CG アニメコンテスト 作品賞
SIGGRAPH 2007（アメリカ） / Animation Theaters
ASIAGRAPH 2007 動画作品公募部門 最優秀作品賞
第 11 回 文化庁メディア芸術祭 審査委員会推薦作品
- 齋藤正和 准教授《修士（メディア表現）》
 - ・ 専門：映像表現研究
 - ・ 研究テーマ：映像作品・映像インスタレーション作品の制作・研究
 - ・ 略歴：同志社大学 法学部政治学科 卒業（1999）
岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー マルチメディアスタジオ科卒業（2001）
情報科学芸術大学院大学 メディア表現研究科 修了（2003）
トライデントコンピュータ専門学校 非常勤講師（2003～2005）
情報科学芸術大学院大学 助手（2004～2007）
情報科学芸術大学院大学 助教（2007～2012）
名古屋学芸大学 メディア造形学部 助教（2012～2014）
名古屋学芸大学 メディア造形学部 講師（2014～2021）
名古屋学芸大学 大学院メディア造形研究科 講師（2018～2021）
名古屋学芸大学メディア造形学部 兼 大学院メディア造形研（2021～現在に至る）
 - ・ 所属：日本映像学会

- 柴田知司 准教授《修士（メディア表現）》
 - ・ 専門：メディア表現、グラフィックデザイン、情報デザイン、インタラクショナルデザイン
 - ・ 研究テーマ：メディアデザイン教育における学習フローやソフトウェア研究・開発
グラフィックデザイン、インタラクショナルデザイン領域における研究・制作
 - ・ 略歴：成安造形大学造形学部デザイン科 学士
情報科学芸術大学院大学メディア表現研究科メディア表現専攻 修士
 - ・ 受賞歴：第6回文化庁メディア芸術祭／インタラクティブ部門・優秀賞
Ars Electronica 2004／the next idea・Winner
グッドデザイン賞／Good Design Award 2015（産学協同プロジェクト）
- 島上祐樹 准教授《修士（工学）》
 - ・ 専門：繊維材料、テキスタイル分野
 - ・ 研究テーマ：繊維集合体の特性解析や新しい用途開発について
 - ・ 略歴：岐阜大学大学院工学研究科応用化学専攻 博士前期課程修了
あいち産業科学技術総合センター尾張繊維技術センター
素材開発室 主任研究員
- 鈴木悦久 准教授《修士（メディア表現）》
 - ・ 専門：作曲、演奏、メディア表現
 - ・ 研究テーマ：音楽表現における身体の研究
 - ・ 略歴：1998年 昭和音楽大学音楽学部器楽学科打楽器専攻卒業
2004年 情報科学芸術大学院大学（IAMAS）修了
 - ・ 受賞歴：2006年 アルスエレクトロニカ デジタルミュージック部門ホノラリーメンション賞（Mimiz 名義）
2008年 AAC サウンドパフォーマンス道場 優秀賞
 - ・ 学会活動など：JSSA 先端芸術音楽創作学会 会長
JSEM 日本電子音楽協会 理事
- 村上将城 准教授《修士（芸術）》
 - ・ 専門：写真表現
 - ・ 研究テーマ：場所・現風景を扱った写真作品制作、研究
冊子による写真表現の研究
 - ・ 略歴：愛知県立芸術大学大学院 美術研究科修士課程修了
Hochschule für Grafik und Buchkunst（独国ライプツィヒ視覚芸術アカデミー）
Heidi Specker クラス研究生
 - ・ 所属：日本映像学会
- 山本努武 准教授《修士（メディア表現）》
 - ・ 専門：メディア芸術
 - ・ 研究テーマ：メディア技術を用いた VR 表現、プログラミング、デザイン
 - ・ 略歴：成安造形大学、IAMAS、愛知県立芸術大学
 - ・ 所属：日本映像学会、日本心理学会

- 尹 成濟 准教授《修士（造形）》

- ・ 専門：グラフィックデザイン全般、タイポグラフィ
 - ・ 研究テーマ：ビジュアルコミュニケーションデザイン全般
 - 文字構造による表記・表現の研究
 - 公共空間におけるサインシステム
 - タイポグラフィデザイン / 視認性の高いタイプフェース研究
 - ・ 略歴：武蔵野美術大学大学院修士課程造形研究科視覚伝達デザイン専攻修了
 - 武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科研究室助手
 - 名古屋学芸大学 メディア造形学部デザイン学科准教授
 - アジアグラフィックデザイントリエンナーレ審査委員
2004. The 83th NY ADC(New York Art Directors Club)Awards 特別賞
2005. Something We Can Do for the Earth 2005 日本国際博覧会 アジア環境ポスター展
2011. COP10:Nagoya Japan 2010 “BALANCE OF ECOSYSTEMS”
2011. IDA (International Design Alliance) 2011 IDA CONGRESS Honorable Mentions
2011. VIDAK International Poster Exhibition
2011. The 1st International City Brand Design Exhibition
2012. The 8th Asia Graphic Design Triennale 2012
2012. Messages for Peace, Environment and Love “balance of ecology”
2013. Busan International Design Festival Design
2014. Asian Design Exhibition Invites Designers
2015. The 9th Asia Graphic Design Triennale 2015
2015. VIDAK International Poster Exhibition eum Design Connects
2015. Invitation to JEJU-ICP 2015 International Design Exhibition
2015. “DENSO Seed of Waku Waku” GOOD DESIGN AWARD 2015(Industry collaborative project)
2016. Asia Tour Poster Exhibition / Japan, Korea, China, Taiwan, Singapore, Macao
2017. International Poster Exhibition + A9
2018. Chubu Creator’s Club 45th Anniversary International Poster Exhibition
2018. The 10th Asia Graphic Design Triennale 2018 “Tension”
2019. The 50th Anniversary International Invitation Exhibition of KECD 2019
2021. 2021 Changwon National University International Exchange Arts Festival Invitation
2021. The 11th Asia Graphic Design Triennale / International Cooperation - Coexistence of the global environment
2022. 2022 Changwon National University International Exchange Arts Festival Invitation
2022. Kecd International Poster Exhibition & Seoul Design 2022 / Beautiful Seoul
2023. Chubu Creators Club 50th Anniversary Poster Exhibition

- 樋口誠也 助教《修士（メディア造形）》

- ・ 専門：映像表現、写真表現
- ・ 研究テーマ：イメージと本質に関する研究・作品制作
 - 写真・映像を主な対象とした視覚文化研究
- ・ 略歴：名古屋学芸大学メディア造形学部映像メディア学科 卒業
 - 名古屋学芸大学大学院メディア造形研究科 修了
 - 写真新世紀 2020 年度【第 43 回公募】グランプリ受賞

【注】教員の構成並びに略歴等は 2025 年 4 月現在のものです。

授業概要

- メディア造形文化特論

まず人文諸学の広範な領域から、〈眼差し〉をめぐる広く知られた概念・理論・思考方法を紹介する。それをふまえて、各自の修士研究テーマに沿って複数の「観点と思考法」を横断する実践演習を行う。適宜レポートおよび発表課題を課し、理解度の確認と論述の訓練を行う。

- 論述構成演習

アカデミック・ライティングには、形式や作法、問いの設定、文献探索、調査・開発、論理構成、文章表現、研究倫理といった様々な要素があります。受講者には、これらの要素を授業中のミニワークや最終レポート作成を通じて会得し、修士論文作成に役立てることが期待されます。また、意見を出し合うなど受講生間で学びを深めてもらいたいと考えています。

- 感性工学特論

デザイン（モノづくり、コトづくり）は、ユーザー、クライアント、生産者、環境、社会といったステークホルダーの要請に応えながら考えられる最適な解を導き出す必要がある。この授業では、「ユーザーの感性」という人間中心設計に本質的に必要な要素を探るため感性工学に基づいた調査、分析の方法を学びながら各自のテーマに即した調査・分析手法を計画する。分析結果とデザイン思考による創造的なプロセスを用いた具体的な問題発見と設計要件の提案を課す。調査・分析に基づいた精度と説得性を備えた企画立案が可能な人材の育成に資す。

- イノヴェイティヴメディア特論Ⅰ

授業は、異なった専門領域を持つ教員によるオムニバス形式を採用する。5名の教員が3回の講義でテーマとして扱うイノベーション主題を1つ提示し、それに関連する歴史や現状分析を講義する。その上で、実践的な表現への応用演習を行う。

- イノヴェイティヴメディア特論Ⅱ

授業は、異なった専門領域を持つ教員によるオムニバス形式を採用する。5名の教員が3回の講義でテーマとして扱うイノベーション主題を1つ提示し、それに関連する歴史や現状分析を講義する。その上で、実践的な表現への応用演習を行う。

- クリエイティヴマネジメント特論Ⅰ

クリエイティヴな思考法の型として広がっているデザイン思考と、クリエイティビティを組織の資産と位置付けるデザインマネジメントの手法や事例を紹介する。その上で、様々なブランディング事例をディスカッションで取り上げ、創造的な価値を伝達する際のコミュニケーションを中心に考察を深める。

- クリエイティヴマネジメント特論Ⅱ

イノベーション、マーケティングなどの背景文脈や、経営学、組織学、生産性など多様な視点で創造性を解説する。その上で、様々な規模のクリエイティヴマネジメント事例について、ファシリテーションを意識したディスカッションを行う。これにより、ビジョンの設定や合意形成など集団での創造行為に対して体験的に理解を深める。

- 映像メディア特論Ⅰ

19世紀から20世紀にかけて急速に発達したメディア技術の変遷を踏まえて、映像文化がどのように変化しその時代の何を表象したのかを探る。映像メディアに留まらず、美術や音楽を含む視聴覚文化全般を射程に、多様な観点より19世紀から現在にかけてのメディアと芸術を巡る諸相を、具体的作品事例とともに考察する。

- 映像メディア特論Ⅱ

「映像メディア特論Ⅰ」を継続し、19世紀から20世紀にかけて急速に発達したメディア技術の変遷を踏まえて、映像文化がどのように変化しその時代の何を表象したのか探る。映像メディアに留まらず、音楽や美術、舞台芸術を含む視聴覚文化全般を射程に、多様な観点より19世紀から現在にかけてのメディアと芸術を巡る諸相を、具体的作品事例とともに考察する。

- デザイン特論Ⅰ

デザイン特論Ⅰは、ヴィジュアルコミュニケーションデザインが形になった国内外のモノを取り上げて、社会的背景や時代背景をふまえながら、そのモノのデザインが果たした役割・効果・影響力と同時に、そのデザインの背景にあるクリエイティブの狙いや工夫や創造力について考察する。

院生と教員のそれぞれがとりあげたモノに対して研究し、受け手と送り手（クリエイター）の両方の立場からその研究した結果をお互いに毎回レポートし合い、ディスカッションすることで、様々な視覚伝達表現に対しての知識を増やしながら、ヴィジュアルコミュニケーションデザインの概要を他人に説明できる有識者になることを到達目標とする。同時に、クリエイターとしての思考力と創造力を高めていくことが狙いである。

- デザイン特論Ⅱ

スペースデザイン並びにプロダクトデザイン、トランスポートデザインの諸理論・論説を深めることがテーマである。受講生自分の専門分野以外に、幅広く身の周りにあるデザインの知識を習得することを目標とする。

- ファッション造形特論Ⅰ

デザイン、テキスタイル、造形、ビジネスなどの理論的言説と、担当教員の制作・研究の実践を背景に、ファッション環境に関する様々な事象を考察する。

対象を複眼的に見ることの重要性を実感するとともに、課題制作やディスカッション、プレゼンテーションによって、自身の思考や感覚を外部的化できるようにする。

- ファッション造形特論Ⅱ

「ファッション造形特論Ⅰ」を踏まえ、造形行為をビジネスにシフトさせるための要件を抽出する。デザインを企業における価値連鎖の仕組みとして捉え、企業と市場・社会との関わりに活用する思考や手法を学び、自身で決定したファッションキーワードについての戦略的ストーリーを提示する。

- メディア造形演習

授業は、個別指導とゼミナール形式で行う。修士論文・作品に必要な基本的な知識と技法を習得しつつ、論文や作品の方向性を具体化する。各自の研究テーマに関連した文献や作品の先行事例を調査するとともに、その都度、調査や制作の進捗をプレゼンテーションする。

なお、本演習は、基本的には指導教員の専門領域の範疇で進めるが、院生のテーマが学際性を持つ場合などは、他の教員とも協働し柔軟に対応していく。

【注】授業概要は2025年度のものです。

募集要項

1. 募集研究科（専攻）・入学定員

研究科	専攻	課程	入学定員
メディア造形研究科	メディア造形専攻	修士課程	5 人

2. 入試実施日程

入試種類	出願期間	試験日	合格発表
前期日程	8/18(月)～8/28(木)	9/6(土)	9/26(金)
後期日程	1/23(金)～2/5(木)	2/14(土)	3/5(木)

3. 受験資格

次の各項のいずれかに該当する者または 2026 年 3 月 31 日までに該当見込みの者

- ① 大学を卒業した者 (法第 102 条)
- ② 大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者
(施行規則第 155 条第 1 項第 1 号)
- ③ 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者
(施行規則第 155 条第 1 項第 2 号)
- ④ 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修することにより当該国の 16 年の課程を修了した者
(施行規則第 155 条第 1 項第 3 号)
- ⑤ 我が国において、外国の大学相当として指定した外国の学校の課程（文部科学大臣指定外国大学日本校）を修了した者
(施行規則第 155 条第 1 項第 4 号)
- ⑥ 外国の大学等において、修業年限が 3 年以上の課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者
(施行規則第 155 条第 1 項第 4 号の 2)
- ⑦ 指定された専修学校の専門課程（文部科学大臣指定専修学校専門課程一覧）を修了した者
(施行規則第 155 条第 1 項第 5 号)
- ⑧ 旧制学校等を修了した者
(昭和 28 年文部省告示第 5 号第 1 号～第 4 号、昭和 30 年文部省告示第 39 号第 1 号)
- ⑨ 防衛大学校、海上保安大学校、気象大学校など、各省大学校を修了した者
(昭和 28 年文部省告示第 5 号第 5 号～第 12 号、昭和 30 年文部省告示第 39 号第 2 号)
- ⑩ 大学院において個別の入学資格審査により認めた 22 歳以上の者
(施行規則第 155 条第 1 項第 8 号)

法：学校教育法 施行規則：学校教育法施行規則

※受験資格③・④・⑩で出願しようとするものは、必ず定められた期日までに所定の資料を提出し、事前審査又は個別審査で出願の許可を受けてから出願すること。出願の許可を受けずに出願した場合は、出願を認めないので注意すること。詳しくは、事前に事務局（大学院係）に（前期 7 月 1 日・後期 12 月 1 日まで）問い合わせること。

※外国国籍を有する者で、受験資格③、④、⑤、⑥で出願しようとする者は、「公益財団法人日本国際教育支援協会」または「独立行政法人国際交流基金」が実施する「日本語能力試験（N1）」に合格した者に限る。なお、出願前に必ず事務局（大学院係）に（前期 7 月 1 日・後期 12 月 1 日まで）問い合わせること。

4. 選考方法

一般入試

- (1) 書類審査
- (2) 表現力試験 [資料読解、またはテーマ・設問に対するビジュアル表現・論述を見る試験]
90分 ビジュアル表現・論述 (論文600字から1,200文字程度)
- (3) 作品・ポートフォリオ審査 [出願時提出]
- (4) 口頭試問
研究計画書に基づく試問及び専門分野についての試問
合格判定は、書類、表現力試験、作品・ポートフォリオ審査、口頭試問による総合判定

名古屋学芸大学対象特別選抜入試

- 出願資格 名古屋学芸大学を卒業見込みの者または2016年3月以降に卒業した者
- (1) 書類審査
 - (2) 作品・ポートフォリオ審査 [出願時提出]
 - (3) 口頭試問
研究計画書に基づく試問及び専門分野についての試問
合格判定は、書類、作品・ポートフォリオ審査、口頭試問による総合判定

5. 入学検定料

35,000円

※出願に関して

大学院の「特別研究」については、受験生が希望する研究を、指導教員の専門分野の関係上指導できない場合があるため、必ず事前に受験生が大学院で研究したい内容で研究可能を確認し、指導教員の受け入れ許可を得た上で出願すること。許可を受けずに出願した場合は、これを認めないので注意すること。

※受験上の合理的配慮が必要な方へ

本学大学院の入学選抜試験において、障がいや疾病および怪我などにより受験上の合理的配慮が必要な場合、受験時に合理的配慮を提供します。合理的配慮が必要な方は、出願前にその旨大学までご連絡ください。障がい等の程度に応じた合理的配慮に向けて検討・調整を行いますが、すべてのご希望に添えるとは限りませんので予めご承知おきください。

納付金

(単位：円)

	手続時	1年次後期	2年次前期	2年次後期	計
入 学 金	100,000 円				100,000 円
授 業 料	500,000 円	500,000 円	500,000 円	500,000 円	2,000,000 円
教育充実費	100,000 円	100,000 円	100,000 円	100,000 円	400,000 円
計	700,000 円	600,000 円	600,000 円	600,000 円	2,500,000 円

但し、入学時は2段階納付 1次：入学金 2次：授業料・教育充実費

なお、名古屋学芸大学卒業生は入学金を免除

お問合せ先

名古屋学芸大学 事務局

〒470-0196 日進市岩崎町竹ノ山 57 大学院係 tel.0561-75-2880(直通)

E-mail: gr-office_ml@nuas.ac.jp

名古屋学芸大学 事務局

E-mail: gr-office_ml@nuas.ac.jp

〒470-0196 愛知県日進市岩崎町竹ノ山57

TEL (0561) 75-2880 (直通電話)